NIEしもつけ ワークシート 下野新聞

81

小学校高学年～中学生向け

年組

（2021年9月27日付・下野新聞1面）

記事は加工しています

本県高校生 意識高く

献血率5年連続［ア］位

20年度［イ］人［ウ］年で最多

各校へのバス派遣定着

県は26日までに、2020年度の県内高校生の献血率が15・02％となり、都道府県別で5年連続トップだったと発表した。県内では多くの高校で「学内献血」に取り組んでおり、生徒の献血への意識の高さがうかがえる結果となった。

県薬務課によると、20年度の高校生の献血者は7623人。19年度より644人増え、過去10年間で最も多かった。高校在学者数に対し、献血した生徒の割合を示す献血率は全国平均3・41％。本県はこれを大きく上回り、2位の山梨県（9・3％）も引き離した。

高い献血率を支えるのが、献血バスを高校に派遣して行う学内献血だ。例年、県内9割以上の高校で実施してきた。県赤十字血液センターによると、学内献血の開始時期は明確ではないが「長く続いており、学生時代に経験した保護者や教員の理解が大きい」という。

20年度はコロナ禍で実施を控える高校もあり、8割程度の61校にとどまった。それでも複数回協力した高校や、うつのみや大通り献血ルーム（宇都宮市大通り2丁目）を自主的に訪れる高校生もいたという。

全国的には外出自粛などの影響で、献血量の確保に苦慮する地域は少なくないが、本県は需要の高い400ミリリットル献血の計画達成率が今年4～7月累計で100％を超えるなど、献血意識が高い水準にある。

同センターは「命を救うための献血は絶えず必要。コロナ禍であっても献血は不要不急ではないので、ぜひ協力してほしい」と呼び掛けている。

（三谷千春）

【言葉の意味】
献血（けんけつ）…病気の治療や手術などで輸血を必要としている人の命を救うために、健康な人が自らの血液を提供するボランティアのこと

設問

【1】記事を読んで、見出しのア、イ、ウに入る数字を書きましょう。
- ア…
- イ…
- ウ…

【2】栃木県の高校生の献血率が高い理由を説明した下の文章に入る言葉を、記事の中から選んで書きましょう。

> 栃木県では、例年（①　　）を派遣して行う（②　　）に（③　　）割以上の高校が取り組んでいる。コロナ禍の2020年度も（④　　）割程度の61校が参加するとともに、自主的に（⑤　　）を訪れる高校生もいた。

【3】記事の最後に「不要不急」という四字熟語があります。これは「どうしても必要というわけでもなく、急いでする必要もないこと」という意味です。次の①～④の意味を示す「不□不□」の四字熟語を完成させましょう。

①眠りも休みもせずに、物事にはげむこと　…不□不□

②いつまでも年をとらず、死なないこと　…不□不□

③いやいやながら、やむを得ず物事を行うこと　…不□不□（こしょう ふしょう）

④滅びることがなく、いつまでも続くこと　…不□不□（ふきゅう ふめつ）

出題・監修は宇都宮市小学校教育研究会国語部会・皆川美弥子（みなかわ みやこ）瑞穂台小校長